

# 新たなグローバル展開を目指して

九州工業大学 学長 三谷 康範



あけましておめでとうございます。

明専会および会員の皆さま方には、日頃より本学の教育・研究並びに学生の諸活動に対して格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックから日常を取り戻し、人々が集まる形での会合も増えてきています。明専会の支部総会も元の開催様式に戻り、多くのOB/OGが集う賑わいを取り戻しつつあります。しかし、参加者の数という観点においては、各種の会合において元通りとはいかないようで、支部総会も例外ではありません。このような状況の中、オンライン交流イベントを併

用するなど、開催方法の模索が続いています。対面での会合がもたらす

満足度は、遠隔形式とは比べ物にならないことは言うまでもありません。

本学でも、各種イベントが原則として対面形式に戻っています。入学式や卒業式はもちろん、各種表彰式や留学生が交流する「国際友好の夕べ」も対面で開催されています。また、国際交流も活発になってきてお

り、学長間の大学相互訪問が再開するとともに、学生の派遣や留学生の受け入れも増加しています。このような好転している状況に水を差すのが、国際情勢の悪化です。昨年10月、フランスのサンテイエヌヌ鉱山高等学院およびロレーヌ大学を訪問し、キャンパスや研究所などを見学するとともに、両大学の学長とも会談しました。私にとって、久々の欧州訪問でしたが、往路のフライトはベールディング海峡を抜け、北極海、グリーンランドを通って欧州に向かい、復

路はトルコ、モンゴル、中国を通って帰国しました。所要時間は片道約14時間と、欧州の遠さを改めて実感しました。アンカレッジ経由で欧州に向かっていた時代を思い出す旅でもありました。

本学は、両大学とダブルディグリー協定を結び、さらに研究交流も活発に行っています。今回のフランス訪問は、本学にダブルディグリー取得を目指す日本人学生が現れたことや、EUがサポートする交流事業「Erasmus+」等に採択されたことが背景にあります。今後、これらの交流がさらに活性化することが期待されます。

さて、本学では昨年4月、リカレント教育を行う特別目的会社として「Kyutech Arise」を設立しました。大学が持つ教育資源を活用し、社会人の継続的学びをサポートする仕組みを構築しています。特に本学OB/OGに対するリカレント教育受講においては明専会のサポートもいた

おります。

2025年は、明専会発足110周年に当たります。私立明治専門学校としての初めての卒業生を輩出後、ほ

どなく同窓会として組織され今日に至っており、その歴史の深さに改めて思いを馳せております。3月には記念式典が開催される予定です。

現在、各キャンパスにGYMLABO（戸畑）やポルト棟（飯塚）といった共創空間を備えており、そこでは在学学生、OB/OG、企業、地域との活発な交流が進展しています。さらには、戸畑キャンパスに大学の技術を社会実装する支援を強化するための「未来思考実証センター」の建設を進めています（2025年3月竣工予定）。明専会会員の皆さんも、ぜひ一度キャンパスを訪れ、進化を続けるキャンパスの様子をご覧いただければ幸いです。

このような中、昨今、国立大学の授業料の値上げに関するニュースが大きく報道されています。昨年は、授業料の値上げを検討していることを表明した東京大学の学生らから反対の声が上がるなど、大きな社会問題となりました。この問題は、この

国の高等教育の費用を誰が負担すべきか、国が教育にどのように投資すべきかを問う、極めて重要な事項だと認識しております。個々の国立大学の授業料の議論になってしまったことは本意ではありませんが、改めて国全体での議論の必要性を痛感しております。

2025年こそ世界が平和を取り戻し、また、皆さまにとって実り多き一年になりますことを願っております。卒業生の皆さまとも、さまざまな活動を通じてより一層関係を深めていければと考えております。今後とも母校の動向にご注目いただき、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。本稿をもって新年のご挨拶とさせていただきます。